

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 22 日現在

機関番号：32685

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370703

研究課題名(和文) リンガフランカとしての英語教育 - 小学校外国語活動の教員養成ニーズ分析

研究課題名(英文) Lingua Franca for Asian Children

研究代表者

田中 宏昌 (Tanaka, Hiromasa)

明星大学・人文学部・教授

研究者番号：90328980

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：こどもたちによるリンガフランカ(共通語)である英語の使用に関して、日本の小学生と台湾の小学生の特別授業からデータをとり分析を行った。日本人と台湾人の小学生は英語のみを共通語として学んでいる。参加した日本の小学生の英語力は、台湾の小学生に比べてかなり低かったが、体を動かす遊びによるスモールトーク的な人間関係の構築や、具体的な目的を持った活動には、目標達成を目的としたシンプルな英語の使用がみられた。また具体的な目的をもった活動により、言語学習者としてのアイデンティティ以上に英語による実践者としてアイデンティティが子供たちの中に生まれたことが観察できた。

研究成果の概要(英文)：Our data show that in facing a real-life translanguaging situation, the children used a number of resources in their attempts to effectively communicate with other children. This translanguaging space required the development and deployment of performative competence by the children, and as a result, the children gained more opportunities for working in the language. The narrative data indicate that the identity of the children may change from a learner of English as a target language to include the identity of an ELF user. We adopted an alternative approach to viewing SLA in which mind, body, and world are functionally integrated.

研究分野：社会言語学

キーワード：リンガフランカ 小学生 英語学習

1. 研究開始当初の背景

英語の使用が世界に広まり、英語を母語としない英語話者の中での英語によるコミュニケーションが増加している。その中で、英語教育研究者の間で、ネイティブスピーカーの英語だけをモデルとした英語教育に疑問が投げかけられている。一方ではビジネスを中心とした実証的な英語使用の研究分野では、リンガフランカ英語といわれる共通語としての英語の研究がすすめられていた。リンガフランカ研究は、研究開始当初リンガフランカ研究は、リンガフランカの発音、文法などの特徴をとらえようとしているものが多かった。少数ではあるがリンガフランカの言語的な特徴をとらえようとした研究とは別に、リンガフランカの社会的な位置、あるいは使用の状況などに関する社会言語学的な研究も進められつつあった。しかしながら、ほとんどの研究は成人の言語使用者を対象にしたものであり、こどもたちの英語におけるリンガフランカの研究は、少なかった。日本国内では小学校での外国語活動が始まった直後であり、どのような英語を子供たちに教えるべきか、英語科専科の教員かそれとも担任が英語を教えるべきかなどの議論が盛んに行われていた。

2. 研究の目的

本研究は、こどもの間で使われるリンガフランカの社会的側面とリンガフランカ英語を体験することによるこどもの社会的アイデンティティの変化に焦点を絞る。リンガフランカとは子供たちにとって何を意味するかを探り出すことを目的に、民族誌的アプローチを使って実証的なデータを中心に分析をすすめるものとした。台湾の小学校と交渉を行い、台湾の小学生が日本に来て、日本の小学生と交流する場を設定した。日本と台湾の小学生が夏の特別授業で合流した場で、こどもたちの中でのリンガフランカを研究することにより、小学校での英語教育に関する英語モデルのあり方を考察することをねらい、最終的に小学校教員のニーズを洗い出すことをねらいとした。さらにリンガフランカ英語の実証的なデータを質的に解析することで、現在のリンガフランカ英語の研究にも貢献することも見据えた。

3. 研究の方法

リンガフランカ英語の場面をこれまでの研究で構築された概念である Translingual Space を枠組みとして理解し、データを収集し分析した。データはビデオ録音、インタビューを中心とした。中心となった「元気玉プロジェクト」以外にも、様々なリンガフランカ現場のデータを集めて、補足的な分析をおこなった。分析の枠組みとしては、社会認知的学習とアイデンティティの概念を用いて、ディスコース分析を行った。

4. 研究成果

小学生の使用するリンガフランカ英語の重要な要素がデータの中から洗い出された。言語は最小限にした体を使ったスモールトークによる人間関係の構築が英語の積極的なコミュニケーションの下地になることがデータから分析ができた。この分析により、英語教育の中における、英語を使用する文脈をこどもたちに理解させることの重要性が示された。またこどもたちの「英語学習者」から「英語使用者」への社会的なアイデンティティの変化から、小学校では英語を言語として教えるよりも実践として教えるほうが適切ではないかという結論が生まれた。

研究開始当初予測していなかった副次的な研究成果もいくつか生まれた。リンガフランカとしての英語は、言語として見るよりも実践として扱い、教えるべきであるという議論は、ビジネス英語の分野で、活用された。同時に進行させていた英語のビジネスプレゼンテーションを実践としての英語と見た場合、コミュニケーションの分析に新しい展開が生まれた。また研究代表者がかかわる、地方都市での国際観光による町おこしプロジェクトにおいても、地域の高齢者におもてなし、英語を理解してもらうことに、研究成果を応用した。この成果は、研究専門誌ではないが「どンドン話す「多トーク」を実践しよう」というコスモピア社の『多聴多読マガジン』の10月号の記事になった。

さらに研究手法的にも複数の民族誌的データの処理に関する外部者・内部者の区別のあいまいさに関する問題点の洗い出しに至った。この研究方法論に関する批判は2016年1月の Association for Business Communication 学会で発表を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

著者名 Bertha Du-Babcock and Hiromasa Tanaka. 標題 A Linguistic Approach to Management Research: Leadership in Intercultural English Meetings in Asia 雑誌名 Bulletin of the Transilvania University of Braşov, Series VII: Social Sciences and Law 査読あり 巻 1. ページ (2016年7月初旬刊行予定)

〔学会発表〕(計6件)

発表者名 田中宏昌 発表標題「グローバル化対応人材育成」学会名国際ビジネスコミュニケーション学会関東支部会 発表年月日、2016年4月23日 発表場所 法政大学 (東京)

発表者名 Geert Jacobs, Dorte Lønsumann,

Karin Goettsch, Maria Cristina Gatti & Hiromasa Tanaka and Maria Cristina Gatti 発表標題 Getting into business: Research methodology and researcher informant interaction 学会名 Association for Business Communication, European Conference 発表年月日、2016年1月7日 発表場所 ケープタウン (南アフリカ)

発表者名 Hiromasa Tanaka and Maria Cristina Gatti 発表標題 Standardized formats vs cultural identities? The case of Japanese business presentations (FP) 学会名 Association for Business Communication, European Conference 発表年月日、2016年1月6日 発表場所 ケープタウン (南アフリカ)

発表者名 Hiromasa Tanaka 発表標題 A Linguistic Approach to Management Research: Leadership Discourse in English as Lingua Franca Meetings. 学会名 ACUM 発表年月日、2015年11月20日 発表場所 ブラショフ (ルーマニア)

発表者名 Maria Cristina Gatti and Hiromasa Tanaka 発表標題 Presentations in Asian Business Discourses. 学会名 Discourse Communication and Enterprise VIII 発表年月日、2015年6月11日 発表場所 ナポリ (イタリア)

発表者名 Ethel Ogane 発表標題、Activities for Listening and Speaking in Small Talk 学会名 JALT Yokohama 発表年月日、2015年1月18日 発表場所 神奈川公会堂ホール 横浜

発表者名 Takanori Kawamata, 発表標題、Meisei Summer School Project; Lingua Franca Practice 学会名 Conference of School of Business Communication 発表年月日、2014年11月20日 発表場所 ミンスク (ベラルーシ)

発表者名 Takanori Kawamata, Ethel Ogane, Aya Sugiyama, Kurumi Okuyama, and Hiromasa Tanaka 発表標題、Becoming a lingua franca user: Young learners in Asia in transborder spaces 学会名 AILA World Congress 2014 発表年月日、2014年8月11日 発表場所 プリズベン (オーストラリア)

発表者名 Travis Cote, Ethel Ogane, Mitsuko Imai 発表標題、Orientation for ELF Teachers: Lesson Learned 学会名 JALT International Conference 2013 発表年月日、2013年10月25日 発表場所 兵庫県 神戸市

発表者名 Hiromasa Tanaka, Ethel Ogane, Takanori Kawamata, Kurumi Okuyama, and Aya Sugiyama 発表標題、Young Lingua Franca Users in Transborder Space 学会名 JALT International Conference 2013 発表年月日、2013年10月25日 発表場所 兵庫県 神戸市

発表者名 Paul McBride, Travis Cote, Mitsuko Imai, and Ethel Ogane 発表標題、Incorporating ER into an ELF 学会名 The Second World Congress in Extensive Reading 発表年月日、2013年10月25日 発表場所 ソウル (大韓民国)

発表者名 Brett Milliner, Travis Cote, Ethel Ogane, Paul McBride 発表標題、In-service Teacher Development: Role of Orientation Meeting 学会名 60th TEFLIN International Conference 発表年月日、2013年8月28日 ジャカルタ (インドネシア)

発表者名 Bertha Du-Babcock and Hiromasa Tanaka 発表標題、Link-pin Identities in Asian Business Discourse(s) 学会名 Eleventh Conference on British and American Studies: Embracing Multitudes of Meaning 発表年月日、2013年4月20日 発表場所 ブラショフ (ルーマニア)

〔図書〕(計5件)

著者名 Hiromasa Tanaka, Ethel Ogane, Aya Sugiyama, Kurumi Okuyama and Takanori Kawamata 発行年(2016). 章 Lingua Franca for Asian Children 書名 English as Lingua Franca and East Asian Children 出版元 明星大学 ページ 9-32 査読あり

著者名 杉山亜耶 発行年(2016). 章 日本の小学校における英語教育 書名 English as Lingua Franca and East Asian Children 出版元 明星大学 ページ 32-50 査読あり

著者名 奥山 紅桃 発行年(2016). 章 英語専科としての英語教育をどのように捉えるか 書名 English as Lingua Franca and East Asian Children 出版元 明星大学 ページ 9-32 査読あり

著者名 Takanori Kawamata 発行年(2016). 章 An Introduction: Outline of MSSP 書名 English as Lingua Franca and East Asian Children 出版元 明星大学 ページ 1-9 査読あり

著者名 Hiromasa Tanaka and Maria Cristina Gatti 発行年(2015). 書名 Discourse, Communication and Enterprise VIII 出版元 Dipartimento di Scienze

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田中 宏昌 (Tanaka Hiromasa)
明星大学・人文学部・教授
研究者番号：9 0 3 2 8 9 8 0

(2) 研究分担者

エセル 大金 (Ethel Ogane)
玉川大学・観光学部・教授
研究者番号：6 0 3 3 8 6 3 9

(3) 連携研究者

川又 孝徳 (Kawamata Takanori)
明星大学・人文学部・助教
研究者番号：9 0 7 3 5 2 3 4

(4) 研究協力者

Katherine A Davis (Katherine A Davis)
University of Hawaii, Department of
Second Language Studies, Professor

杉山 亜耶 (Sugiyama Aya)
東京都西東京市保谷第二小学校教諭

奥山 紅桃 (Okuyama Kurumi)
明星小学校教諭